

# 親と子の自然観察

関口 伸一

公益財団法人トトロのふるさと基金 理事

海城中学高等学校 理科教諭

## 第三回 秋の草原を楽しむ。

秋は草原の生き物が面白い。バッタにチョウにトンボと多種多様な昆虫を観察できる。卵で冬を乗り切るものも多く、にぎやかに繁殖行動をとっている。植物も種子で冬を乗り切るもの多く、さまざまな実や種子を付ける。種子にかぎ爪があるオナモミを服につけて遊んだことを思い出す。最近、草原も減りオナモミも減ってきている。今の子どもたちは外来種であるアメリカセンダングサの種子をつけて遊んでいるのだろうか。広々とした草原で観察しているとあっという間に日が暮れてしまう。

バッタの王様といえば、やっぱりトノサマバッタ。大きさが6cmを超える個体の迫力は圧巻である。ボディは緑色で、大アゴのサイドに青色の模様がとても格好が良い。正面から見た顔は正義感あふれる仮面ライダーそのものだ。体長が9cm程にもなる流線型のショウリョウバッタの迫力もすごい。ショウリョウバッタに似たバッタとしてオンブバッタが見られる。オンブしてるのはすべてオンブバッタと勘違いしやすいが、ショウリョウバッタも交尾の際はオンブをする。よく見てみるとオンブバッタは顔の横にイボがあるのでそれで分類することができる。また、似たものとしてショウリョウバッタモドキがいるが、背中に黒い筋が入るので見分けることができる。

オレンジ色のチョウが草原に映える。タテハチョ

ウの仲間であるヒメアカタテハやツマグロヒョウモンなどが見られる。背の高い黄色いセイタカアワダチソウの花が咲いていれば吸蜜しているところが見られるだろう。ツマグロヒョウモンは近畿以西で見られなかったが、最近では関東でも普通に見ることができるようになった。また、セイタカアワダチソウは外来種であり、人為的に拡散してきた種である。セイタカアワダチソウとそれを吸蜜するツマグロヒョウモン、きれいではあるが日本の本来あるべき自然の風景が変わりつつあるのを感じる。

草原を優雅に飛ぶアカトンボ、種類が多く、分類は難しい。ノシメトンボは四枚の先端に黒い斑紋がある。ミヤマアカネは翅の先のあたりに黒い条と白点がある。アカトンボの中でも最もポピュラーなのがアキアカネである。夏に高地で避暑をしてきて、繁殖のために里へ下りてくる大移動を行う。餌となる小さな虫が多い草原で栄養を付け、繁殖相手を探す。秋の草原を彩るアカトンボ。夕焼けと共に子どもたちに見せてあげたい。

こうした昆虫たちは、埼玉県所沢市の狭山湖堤防の草原で見ることができる。雑木林はスズメバチの活動が盛んでちょっと恐怖を覚えることもあるので、この秋は近くの草原に出掛けて、カラフルに色づく生物たちを観察してみるのはどうだろうか。色づいた林と夕日が湖面に映えた景色も見ることができる。

トトロのふるさと基金

トトロのふるさと基金は、市民の寄付金により土地を取得するナショナルトラスト活動を行い、狭山丘陵の自然を保全している。現在は26ヶ所（2014年9月時点）のトラスト地がある。里山管理などの市民ボランティアの受け入れも行っている。

トトロのふるさと基金ホームページ URL : <http://www.totoro.or.jp/>

【訂正とお詫び】 前号（38号）の紙面でツクツクボウシとヒグラシの抜け殻の表記を誤ってしまいました。正しくは、「体色にツヤがあればヒグラシ、ツヤがなければツクツクボウシである。」です。読者の皆様、編集部の皆様にご迷惑をお掛けしてしまい申し訳ありませんでした。謹んでお詫び申し上げます。なお、Web版では訂正されていますので、そちらをご覧ください。